

Title	IV カウンセリング研究センター(グリーンケア・ルーム, 牧会 電話相談)
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.59, 2015.3 : 117-119
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/de tail.php?item_id=5475
Rights	

SERVE

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

IV カウンセリング研究センター (グリーンケア・ルーム, 牧会電話相談)

2012年度

グリーンケア・ルーム

月曜日限定の活動であるが、地道に活動を重ねており、キリスト教界向けの相談室としても注目され、今日に至っている。グリーンケア・ルームの名前も浸透してきており、年々相談数が増加している(相談者累計:151名/年)。『総合研究所Newsletter』Vol.23-1, p.16, 2013に詳細な報告がある。

- (1) グリーンケア・ルームは10年目を迎え、カウンセラーが、2013年1月から3名体制となり、大きな節目となった。相談件数も前年112件から151件に増加した。
- (2) キリスト教界でも、本相談室は年々認知されてきている。来談者も、キリスト教信者が多く、この傾向は年々強くなっている。また教団の人事などの目的から、心理アセスメントを行うこともあった(2件)。
- (3) 相談経路を見ると、牧師や教会関係者からの紹介が大半を占める。これは、教界内での一定の評価を得ているものと考えられる。
- (4) 利用者の居住地を見ると、埼玉県、東京都が中心ではあるが、遠方からの利用者も目立つ。

牧会電話相談

相談件数は多くはなかったが、設置されていることに意味があることを改めて確認した年であった。担当者(堀肇)が諸教団の牧師研修会等において宣伝すると、このような相談機関があることに安心され、利用したいという多くの好意的な反応があった。相談内容は牧師自身の問題と教会員との人間関係また精神病理など多岐にわたるが、相談・カウンセリング修了後、問題がそこですぐ解決できなくても、どの相談者も前向きに取り組みたいとの気持ちをもた

れ、また相談に対して感謝を表された。

2012年度の相談件数は7件であった。

2013年度

グリーンケア・ルーム

月曜日限定の活動であるが、地道に活動を重ねており、一般社会向け、キリスト教界向けの相談室として、今日に至っている。グリーンケア・ルームの名前も浸透したと思われるが、相談者数は減少した。(相談者累計：92名/年)。『総合研究所 Newsletter』 Vol.24-1, p.31, 2014 に詳細な報告がある。

- (1) グリーンケア・ルームは、2013年12月に、開室時から室長として、また精神科医師として責任を負っていた平山正実氏が召天し、大きな悲しみを経験した。その後も、故人の遺志を継承し、希少なキリスト教界向けの心理相談室として活動を続けている。
- (2) カウンセラーが、2013年1月から3名体制となった。ただし、カウンセラー2名は原則隔週出勤であり、のべ出勤数は変わらない。2013年度は、単発的相談が増え、また継続ケースの終結も目立ち、前年度に比べ、面接件数は少なくなった。
- (3) 2013年度の新規ケースについて見ていくと、相談内容(来談者の主訴)については、子育て問題、家族問題が目立っている。
- (4) キリスト教界でも、本相談室は認知されてきている。来談者も、キリスト教信者が多く、この傾向は年々強くなっている。
- (5) 相談経路を見ると、牧師や教会関係者からの紹介が多くなっている。これは、教界内での一定の評価を得ているものと考えられる。
- (6) 利用者の居住地を見ると、東京都が中心である。

牧会電話相談

相談内容で目立ったケースは、主として牧師と教会役員・信徒との関係などであったが、内容は牧師の進退に関わるようなかなり深刻なものもあり、実際に辞任に至るケースもあった。したがってそうした場合は、相談というより

フォローアップ的なものになった。また引退牧師との関係に関わるケースも何件かあり、いずれも解決には霊的また精神・心理的ケアだけでなく、教会の組織や制度の見直しの必要性が感じられ、電話相談の域を越える内容であるという印象を持った。総じて相談内容は、利害関係がない当センターのような第三者機関でない扱えないものがほとんどであると思った。

2013年度の相談件数は8件であった。

2014年度

グリーンケア・ルーム

月曜日限定の活動であるが、地道に活動を重ねており、キリスト教界向けの相談室としても認知され、今日に至っている。各相談の深刻さは増しているものの、相談のべ件数は減少している（相談者累計：72名／年）。（詳しい報告は『総合研究所Newsletter』Vol.25-1、2015に掲載予定）

- (1) 週一度の開室の心理相談室として、カウンセリングを展開している。キリスト教会関係者の利用が多いのが特徴である。
- (2) 従来のカウンセラー2名が大学学部の専任教員として移籍したことで、新たに加わったカウンセラーを中心に新しい体制を整えているところである。
- (3) カウンセラー3名によるケース協議および勉強会は活発で、その成果として3名編著による『牧会相談の実際——カウンセラーと共に考える』（あめんどう）を公にした。

牧会電話相談

ここ数年の相談内容は、事柄（事例）は牧会上の問題ではあるが、牧会者自身が問題に巻き込まれ、うつ状態を発症している印象がある。また牧会者が相談を受けるケースに人格障害あるいは人格障害圏内の問題を抱えている人が多くなってきている（特に境界性人格障害・自己愛性人格障害など）。

2014年度10月の相談件数は9件であった。